

齊藤 千鶴

関西福祉科学大学 助教授

## 超高齢社会における高齢者見守りシステムの研究

昭和 40 年代より取り組みが始められた、A 市における高齢者見守り活動について、現在までの取り組みから、高齢者見守りシステムの構築プロセスとその効果、現状を検証し、わが国の超高齢社会における高齢者見守りシステムのモデルを得ることを目的とした研究である。

民生委員の訪問活動から始まり、ボランティアによる友愛訪問へと発展の経過をたどる。不幸にも大震災を経験し、高齢者の孤立化が深刻化する。そこで行政は、「見守り推進員」という見守りの専門職を、在宅介護支援センターに配置する。「見守り推進員」の配置による「地域見守り活動推進事業」により、地域での高齢者見守り活動の促進と成果を検証した。

すでに、シルバーハウジングには L S A が配置されている。また A 市では、震災後、復興住宅に「見守りサポーター」を配置し、平成 17 年度からは「見守り推進員」に一本化された。見守り推進員体制が強化され、「コミュニティサポートグループ育成支援事業」や「あんしんすこやかルーム」の開設など、新たな事業の取り組みが続き、高齢者見守りシステム構築に向けて、モデルの提示に大いに期待が高まる。